

<b>歴 史 I (History I)</b>		<b>2年・通年・2単位・必修 5学科共通 担当 大矢 良哲</b>
〔準学士課程（本科 1-5 年） 学習教育目標〕 (1)	〔システム創成工学教育 プログラム学習・教育目標〕	〔JABEE 基準〕
<p>〔講義の目的〕</p> <p>歴史の学習の目的は、過去に学ぶ、つまり今と未来への道標を探ることにある。日本史の場合、その目的は、過去の文化的伝統の中から、われわれが本当に誇り得るもの、明日の日本の発展、さらに人類全体の向上のために貢献し得るもの、反対に、日本民族の進歩を妨げてきたもの、今後一日も早く清算されなければならないものを的確に見分け、それぞれにふさわしい正当な位置づけを行うところにある。歴史では基本的な事実を正しく理解し、歴史的なものの見方を育てていきたい。</p>		
<p>〔講義の概要〕</p> <p>講義は、時間の関係で、原始から近世までの通史と近現代の一部を取り上げる。近現代は、“アジアのなかの日本”をテーマに平和学習を行う。夏休みには調査レポートを課し、授業の中に発表の機会を持つ。</p>		
<p>〔履修上の留意点〕</p> <p>歴史学という学問は、過去に向かってわれわれの探究心を無限に伸ばしていくものだから、知的遊戯としての楽しさを含んでいる。しかしそれは過去を過去としてのみ後ろ向きに見るものではない。むしろ前向きの実践的な性格の強い学問であり、人々の生き方そのものに直結している。歴史は暗記ものだというような考え方は、この点が理解されていないことによる。歴史学は、経済学・法学・政治学などとは違って、社会諸現象の総体を有機的に捉え、これを時間の経過において問題にするところに特色がある。テストの際に暗記さえすればよいという考えは捨てていただきたい。むしろ歴史の流れを理解するほうが大切で、そのために多少の歴史的用語の学習が必要となるのである。</p>		
<p>〔到達目標〕</p> <p>学生諸君が、日本の歴史を、日本をとりまく世界の歴史とのつながりのもとに科学的に理解しようとする。そのためには、まず日本史の正確な理解が要求される。</p>		
<p>〔評価方法〕 以下の3つの項目で成績評価を行う。</p> <p>定期試験（60%）…前期中間・後期中間・学年末に実施。 レポート（25%）…夏休みには平和学習・文化財学習の課題を出す。そのレポートの内容、発表の仕方は定期試験と同等に評価する。残り15%は出席状況・受講態度（ノート作成等）等で評価する。</p>		
<p>〔教科書〕</p> <p>「ビジュアルワイド 図説日本史」（東京書籍）を教科書として使用する。</p> <p>〔補助教材・参考書〕</p> <p>補助教材としてはビデオ教材や配布プリントなどを使用する。 参考書には「日本社会の歴史（上・中・下）」網野善彦著（岩波新書） 「日本文化史 第二版」家永三郎著（岩波新書）などがある。</p>		
<p>〔関連科目・学習指針〕</p> <p>本教科は地理・歴史（世界史）・政治経済・法学・経済学等の科目に関連する。</p>		

## 講義項目・内容

週数	講義項目	講義内容	自己評価*
第1週	歴史とは何か、文化の見方	歴史の学び方や文化の見方を説明する。	
第2週	日本列島の形成と原始の文化	先土器時代・縄文時代の生活文化を説明する。	
第3週	縄文文化と弥生文化	縄文時代の終末と弥生時代の文化を説明する。	
第4週	近畿の王権と国家形成の道	ヤマトの王権の発展と古墳文化の特色を概観する。	
第5週	東アジアの動向と飛鳥の朝廷	ヤマト国家の中央集権国家建設の道を探る。	
第6週	大化改新	大化改新前後の政治情勢について。	
第7週	「日本国」の成立と列島社会	律令国家成立過程の政治を概観する。	
第8週	平城京と奈良時代の政治	平城京・遣唐使と奈良時代の政局について概観する。	
第9週	<b>【近代】</b> アジアのなかの日本 大日本帝国の戦争	近代日本の政治と戦争を概観し、エスノセントリズムについて考える。	
第10週	太平洋戦争への道	太平洋戦争直前の日米関係史料を講読。	
第11週	植民地支配の実態	アジア太平洋戦争の植民地・占領地支配の実態を探る。	
第12週	空襲、沖縄・広島・長崎	戦争終結の過程を検証し、日本の被害について考える。	
第13週	民主化と戦後改革	戦後の改革と日本国憲法について、戦後日本の原点を探る。	
第14週 第15週	レポート発表	夏休みの課題（平和学習）の調査報告を実施する。	
第16週	天平文化	国家仏教・天平芸術の関係について。	
第17週	平安初期の政治と文化	律令政治の再建の道と貞観弘仁期の文化を概観する。	
第18週	摂関政治と列島社会	摂関政治の実態とその文化を探る。	
第19週	院政期の政治と社会	院政の政治形態の特色とその文化を探る。	
第20週	東国王権の出現と東西王権の戦争	東国王権の出現と王朝文化の変貌の過程を説明する。	
第21週	鎌倉仏教	鎌倉時代の仏教について理解する。	
第22週	鎌倉芸術、東国国家の崩壊と動乱の時代	モンゴル襲来以後、南北朝時代までの政治と社会を概観する。	
第23週	日本国王室町将軍と地域の勢力	大名領国制と室町幕府の外交について説明する。	
第24週	地域小国家の分立	戦国大名の領国支配の実態を探る。	
第25週	室町文化	今日の日本文化と室町文化の関係について理解する。	
第26週	西欧文化との接触と織豊政権	西欧文化との接触から織田政権の統一事業までを概観し、織田政権の意義を考える。	
第27週	日本国再統一の達成と朝鮮への侵略	豊臣政権の諸政策を通じて、近世社会を理解する。また全国統一と朝鮮侵略との関係を考察する。	
第28週	桃山文化と幕藩体制の成立	桃山文化と幕藩体制社会の仕組みについて概観する。	
第29週	鎖国と琉球王国、アイヌ社会	四つの窓で行われた外交、鎖国の影響を考える。	
第30週	まとめ		

\* 4：完全に理解した， 3：ほぼ理解した， 2：やや理解できた， 1：ほとんど理解できなかった， 0：まったく理解できなかった。  
 (達成) (達成) (達成) (達成) (達成)